

富山大学アーカイブズ・ニュースレター

—富山大学の未来をひらくアーカイブズ—

ARCHIVES NEWS LETTER

2022.3.31 第9号

集まってくる情報・資料と活用

アーカイブズ室長 鈴木 景二

富山大学アーカイブズは、2015年に準備室が設置され、2019年4月に正式に開設されました。その存在も少しずつ知られるようになり、徐々に資料や情報が寄せられるようになりました。昨年、旧制富山高等学校の第3代校長 蜷川龍夫氏のご子孫宅から1930年の学生運動に関する資料が見つかり、新聞社を通じて問い合わせを頂きました。早速、ご専門の京都大学福家崇洋氏（元本学人文学部准教授）に検討していただき、本学の歴史の一面を知ることが出来ました。（5月23日、6月5日付、北日本新聞）。秋には、同校の卒業生で英文学者だった山内邦臣氏のご子孫から資料を御寄贈いただきました（入江副室長の下文参照）。いずれも旧制高校の歴史や雰囲気がかぐうことのできる興味深いものです。このさき、新制大学卒業生ゆかりの情報・資料も増えていくことが期待されます。さらに学内においても、工学部から技術発展の歴史を概観できる貴重な計算機等が移管されました。

そうなる問題は、収蔵や活用の拠点をどうするかということですが、この点も関係各位のご尽力により大きな進展がありました。

この4月、ついに富山大学アーカイブズ歴史資料館が開館いたします。これまでアーカイブズに収集保管されてきた史資料は、図書館の一角をお借りして不定期に展示されるにとどまっていた。これでようやく恒常的に史資料をご覧いただくことが可能になり、学内の方はもちろん、来訪者にも本学の歴史を知っていただけるようになります。期待される機能はそれだけではありません。本学には博物館や美術館などの学芸員の資格を取得する課程が設けられていますが、その実習の場がありませんでした。この資料館がそのための施設としても活用できるように準備を進めて参ります。

これからも引き続き、皆さまのご支援をお願い申し上げます。

見つかった資料、騒動の内容を知られた学生一筆もが記載されている。



校長孫宅 昭和初期の騒動 詳細

（現富山市の等に在りし）も発見された資料は、3代校長の孫龍夫が文部大臣宛に宛てた洋文月10日の報告書「昭和七年四月富山高等学校留學生会（開ルル）」「新制富山高等学校留學生会（開ルル）」の3点、旧文部省が富山の旧制高校留學生の問題行動を定期的に報告するを求めたことを基に作成されたものである。「昭和七年四月八日、学生が富山市内を巡り、暴行を繰り返す」と記述されている。

近現代日本社会運動史研究の福家洋京大准教授は「学校側が学生運動をどうにかしようと対策を講じていたかが分かる」と評している。

**旧制富山高
（現富山大）**

左翼運動の資料発見

昭和初期、旧制富山高（現富山大）で起きた学生の左翼運動をまとめた同校の記録が、当時の校長の孫龍夫氏宛にも同校の記録が、当時の山内邦臣氏宛にも見つけた。旧文部省の指示で成したとみられ、騒動の内容や運動に関わった学生の名、処分内容などがつらわれている。専門家は「当時の資料はわずかしか残っていません」（小山紀子）。

学生 の性格も調査

金沢の旧制校では、大正アモラシの高橋にも学生運動があった。旧制富山高校にも1930年代初年頃から学生運動が起るようになった。30年に代校長の孫龍夫が起る、学生200人以上が東水橋町

を受け付けたと記述。学生が「裏心腹を奪り」などと態度を改めたとして「天学二入ルル」を為す青年にであるため懸念を強めたという。一時は劣化し運動が再燃すると、学校側は「昭和七年」にまで、32年学生が真の左翼運動を起し「左翼」を起した。処分した学生54人全員の学生などの処分は、「性善論」の一種はあり、「性善論」の一種はあり、「性善論」の一種はあり。

富山大学には学部毎に卒業生の同窓会や教員の親睦会があり、それぞれの会は名前が付けられ、長い歴史を有しています。その名前からは、本学の歩みや大学への思いを窺うことができます。

今回は、薬学部の同窓会誌「遠久朶」、人文学部と理学部の親睦会「真率会」を取り上げたいと思います。

①薬学部同窓会誌「遠久朶」

薬学に係る遠い昔の医薬書の話から、薬学部同窓会の名称を説き起こしましょう。

日本では、医学・本草学の書物は、豊臣秀吉の桃山時代から、医師が出版を担っていました。その底本になった代表的な医書は、朝鮮や明の本に基づいて復刻されました。江戸時代の中期になると、更に多くの医学書、本草書が出版されるようになります。

富山藩でも、江戸後期、『本草通串』及び『本草通串証図』が上梓されました。著者の十代藩主前田利保は、当時の「愛物産(博物愛好)」番付で東の大関になるなど、全国に知られた博物大名でした。ちなみに、本学のサークル「緒靉会」の名は、利保の博物研究会名に由来します。

利保が『本草通串』を編纂したとき、稻生若水の『庶物類纂』を構想の基本にしましたが、不備な点は、『庶物類纂』が扱った明の李時珍の本草綱目を用いて補っています。また、同時に、従来の本草書が見落としした記事については、和漢の本草書から歌書のジャンルまで渉獵することを旨としました。一方、図譜作成には、本草学者岩崎灌園の『本草図譜』を手本としていたようです。そして、その著書執筆に際しては多くの書籍を利用したと見え、『大和本草』などの和書、『浙江通志』・『本草衍義』などの漢籍名が掲げられています。

このような本草書や医学書は漢文であるため、その読解や作成には十分な漢学の知識が求められます。当時、本草学や医学の研究や施術の臨床に当たっては、正しい漢文の理解と記述が必須のスキルであり教養であったのです。

富山では、明治に売薬と漢方医学の蓄積から薬学校が設けられましたが、大正9年、官立となった富山薬学専門学校は本拠を奥田村に移しました。「奥田」は、その名から類推されるように、もとは富山城下からやや離れた赤江川と神通川に挟まれた辺鄙な地域でした。それが、明治になり、幾つかの村が合併した時、かつての一村名である「奥田」をその地一帯の名にしたようです。

しかし、同窓会誌名に、特定の旧村名を表す「奥田」を用いず、同音異字の「遠久朶」を用いることにしました。その三文字には、先述の、伝統的薬学に流れる漢語の感覚の反映があります。「遠久」は、漢語「久遠」と同じ意味で用いたのでしょう。「朶」は、「万朶の桜」などの表現に見るように「花の咲く枝」を意味します。音の視点から見れば、「久」一字は(漢字の意味に関りなく音を借りて日本語音を表す)万葉仮名でも「く」と読みますが、「朶」は万葉仮名には見当たりません。「遠」「朶」二字は、おそらく、伝統的で豊かな漢語力によって選ばれた文字なのです。

「遠久朶」三文字からは、「長く栄えてたくさんの花をつける枝のように」という薬学を学んだ先人の願いと学び舎への思い、そして脈々と伝わる学問の伝統を窺うことができます。

②人文学部と理学部(旧文理部)の親睦会「真率会」

「真率」とは、今日では、「正直で飾り気のないこと」の意味で用いられます。かつて、中国宋代の司馬光は、「吾が齋の中、虚礼を尚ばず。客の来たるを迎えず、客の去るを送らず。賓主に間無し、坐列に序無し。真率を約と為し、簡素を具と為す。(私の部屋では、虚礼は重んじない。客が来ても迎えず、帰って行くときも見送らない。客も主人もへだてがなく、座列に順序はない。正直で飾り気のないことを信条とし、簡素であることを心がけている。)(宋・司馬光『真率銘』)と記しています。また、別の書籍には、「司馬光がよく友人と集まったが、酒は五杯まで料理は五品までと決めて、その会を「真率会」と名付けた(宋・邵伯温『聞見前録』卷十)とあります。いずれにせよ、その出典からは、司馬光の姿勢が示すように、華美ではなく虚礼を排した会であったことが窺えます。

漢学を尊重していた江戸時代、著名な儒者である清田儋叟(1719-1785)の「知人が集まって開いた会はいわゆる「真率会」である(『孔雀楼筆記』)と称したように、この言葉は広く知られていました。

では、富山大学の「真率会」はどのような目的で設立されたのでしょうか。『富山高等學校十年史』(昭和8年)には、教職員の相互の懇親を図ることを目的に組織され、会員の慶弔の金員、重患の病の見舞金、転職の際に記念品などを贈ることとして、個人での贈答を避けることとした。また、食堂の共同設備や懇親会送別会をはじめ、傷病兵士

の慰問、災害の義援、飛行場設置の寄付などを行う、とあります。日本が戦争に突き進む環境の中で、会が生まれたことが分かります。

人文・理学部の前身である県立の旧制富山高等学校が産声を上げたのは、大正12年です。「真率会」の設立は、その4年後、昭和2年です。学生を迎え、教職員の陣容も整ったその時に、教職員の親睦を目的に生まれたのです。

その後、富山高等学校は、官立の(昭和18年)となり、新制学校制度の下で富山大学設置に伴う文理学部(昭和24年)の設置、のちに改組による人文学部・理学部(昭和52年)の分離を迎えましたが、「真率会」は綿々と引き継がれ、今日もなお健在です。同時に、正直で飾り気のない親睦の精神もまた脈々と息づいています。

旧制富山高校関連資料の受領について

アーカイブズ副室長 入江 幸二

2021年10月、山内邦臣先生のご家族から、旧制富山高校にまつわる品々をご寄贈いただきました。

山内先生は『詩魂と悲劇－ユージン・オニール研究－』など英文学に関する著書書のほか、有名な英語参考書『チャート式 英文解釈法』の著者としても知られています。奈良のご出身ですが、ご尊父が教頭をされていた旧制高岡中学に1931(昭和6)年に転入され、翌年4月には旧制富山高校に入学されました。京都帝国大学に進学されたのち、京都大学教養部や奈良女子大学文学部などの教授を歴任され、1987年に永眠されています。

このたびご家族の方が、遺品を整理中に旧制高校関連の品々を見つけられ、富山大学アーカイブズにご寄贈をお申し出てくださいました。このたび受領した山内氏ならびに旧制高校ゆかりの品には、以下のようなものがあります。

卒業証書(昭和10年3月6日付)、第8回卒業記念アルバム、京都大学の成績表(学年不明)、著書3冊、レコード3枚(創立50周年記念「ファイアーストーム実況録音」「寮歌集」2枚)、同窓会作成の手ぬぐい・青冥寮旗(計16点)、旧制高校時代の写真21枚、同窓会関係の写真多数

卒業証書は折り目が付いたうえ裏面にはクレヨンで落書きがされており、痛みが激しいため、保存に留意が必要です。レコードは創立50周年記念に合わせて1974年に録音されたものですが、往時の雰囲気を偲ばせるものとなっています。これについては、大学アーカイブズの方でデジタル化したいと考えています。

最後になりますが、貴重な品々をお譲りくださるとともに種々の労を取ってくださいました山内先生のご遺族のみなさまに、深く御礼を申し上げます。



(卒業アルバム及び山内氏著書)



(旧制富山高校寮歌集等LP盤)



(旧制富山高校時代、同窓会等写真)



(同窓会開催毎に作られた手ぬぐい)

富山大学アーカイブズ歴史資料館が間もなくオープンします。

〔展示物一例：富山大学150年の歩み、新制富山大学（S24年）設置を認める文部省からの通知、第1回入学式文部大臣祝辞、学生運動活発な頃のビラ、各学部前身校時代（師範学校、旧制富山高校、薬学専門学校、高岡高商等）の写真や卒業アルバム、実験実習機器、手廻し計算機やマイコンなどを展示〕

富山大学に関する史資料を皆さんに見ていただけるよう、歴史資料館を整備中です。

場所は、共通教育棟 E棟 1階です。

見学の希望がございましたら、事務局 アーカイブズ事務室（内線6179）までご連絡ください。

